

## カンキツ ‘せとか’ における台木の違いが樹体および果実品質に及ぼす影響

松元篤史・平野稔邦<sup>1)</sup>・池田繁成・新堂高広  
(佐賀県果樹試験場・<sup>1)</sup> 東松浦農業改良普及センター)

Atsushi Matsumoto, Tosikuni Hirano, Sigenari Ikeda and Takahiro Sindou :  
Effect of Different Rootstock on Tree Growth and Quality in Citrus Cultivar ‘Setoka’

施設栽培された新しいカンキツ品種 ‘せとか’ において、高品質安定生産に適した台木を選定するため、台木の違いが着花・果、果実品質、樹体の生育に及ぼす影響を検討したので報告する。

### 1. 材料および方法

場内のAPハウス内に植栽した結実2年目を迎えるラフレモン、シクワシャー、カラタチ台の4年生 ‘せとか’ を供試し、無加温栽培において、着花状況、新梢発生状況と着果数について調査を行い、7月25日に光合成蒸散測定装置 (KOITO 製, circa-1) を用い、蒸散量を測定した。また、葉色、果実横径、葉の水ポテンシャル、糖度、酸度について経時的に調査し、2003年1月14日の収穫時に果実重を測定した後、解体調査を行った。

### 2. 結果および考察

1) 着花状況は、ラフレモン台で直花数が最も少なく、有葉花率が高かった (データ省略)。また着果率は、ラフレモン台で5.1%と低かった (第1図)。葉色は、ラフレモン台で濃く推移した (データ省略)。

2) 果実肥大は、ラフレモン台が生育初期から成熟期にかけて最も良好だった (データ省略)。

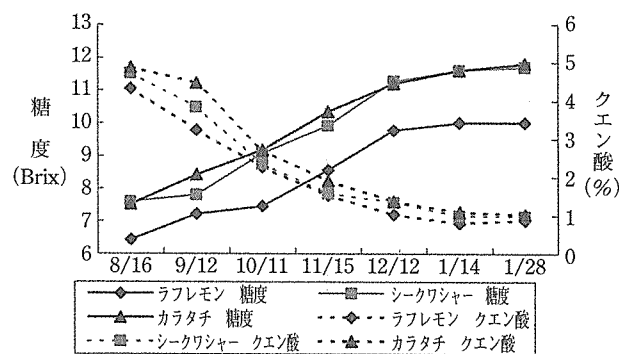
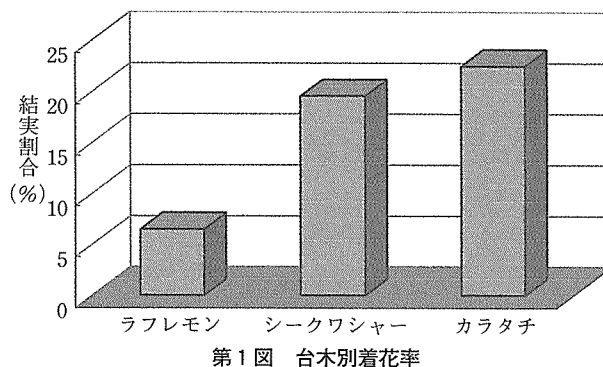
3) 糖度はカラタチ台、シクワシャー台で高く推移しラフレモン台は常に低い値であった。クエン酸もカラタチ台が最も高く推移したが、次第にシクワシャー台、カラタチ台との差は小さくなった (第2図)。

4) 葉の水ポテンシャルは、カラタチ台が最も低く、次いでシクワシャー台、ラフレモン台の順に高くなり (第3図)、蒸散量はカラタチ台が最も少なくなり、次いでシクワシャー台、ラフレモン台と多かった (データ省略)。

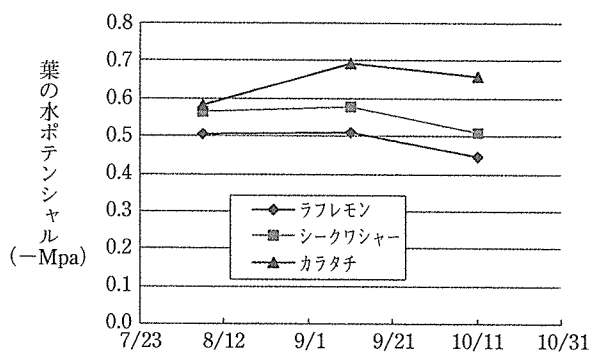
5) 各器官別の乾物重、葉・枝・根は共に、ラフレモン台が最も大きく、次いでシクワシャー台、カラタチ台の順になったが、果実の乾物重はラフレモンが最も大きく、次いでカラタチ台、シクワシャー台の順になった (第4図)。

6) 各台木における根径別乾物重の割合はラフレモン台では根幹の割合が高く、カラタチ台は2mm以下の割合が高かった (データ省略)。

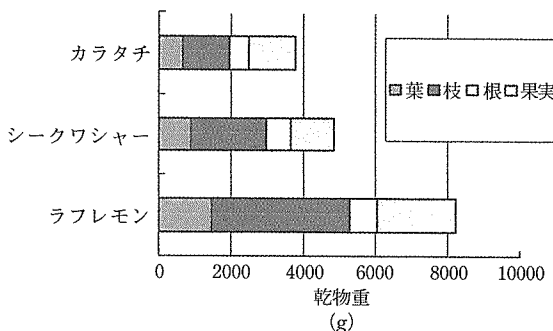
以上のことから、樹体や果実の特性から考慮するとカラタチ台が好ましいと考えられた。ラフレモン台は樹体の生育促進および、大玉果実生産が可能であると考えられるが、水分ストレスを受けにくい傾向にあることから、品質向上のためには、着果確保等の対策が必要であると考えられた。



第2図 台木別果実品質の推移



第3図 台木別葉の水ポテンシャルの推移



第4図 台木毎の器官別乾物重